

消費者動向調査 No.102

テーマ「夏のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 20 年 4 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 485 人、回答率 97.0%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	10.8
30代	24.9
40代	30.6
50代	24.4
60代	9.3

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	46.3
妻だけ	8.6
両方	45.1

西日本シティ銀行

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

[調査結果本文]

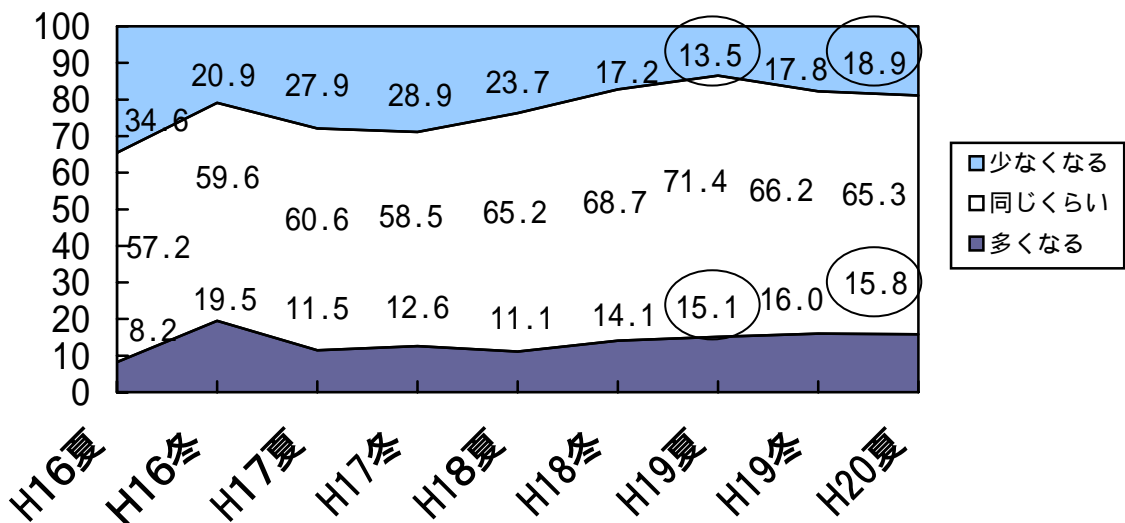
内閣府発表の4月の月例経済報告によると、「景気回復は、このところ足踏み状態にある。」と示しています。先行きについては、「輸出が増加基調で推移し、景気は緩やかに回復していくと期待される」としていますが、米国の信用力の低い個人向け住宅融資(サブプライムローン)問題を背景とするアメリカの景気後退懸念、円高、原油価格の高騰から企業の収益悪化、食品等の身近な商品の値上がりから個人消費の悪化が懸念されています。

このような環境の中、消費者はこの夏のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、夏のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に夏のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の夏のボーナス、昨年の夏と比較して「少なくなる」が 5.4 ポイント増加。「多くなる」は 0.7 ポイント増加とほぼ横ばい。

夏のボーナスが昨年より“少なくなる”と予想する割合が5.4ポイント増加。“多くなる”は0.7ポイント増加とほぼ横ばい。ボーナスが“少なくなる”との予想は平成17年冬から減少傾向であったが、平成19年冬に増加へ転じ、今回も増加している。

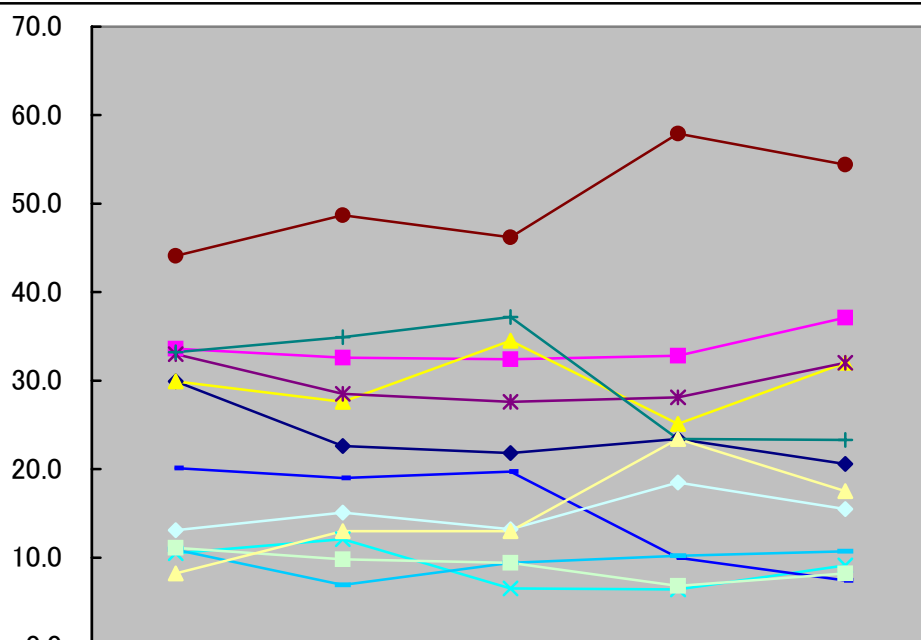
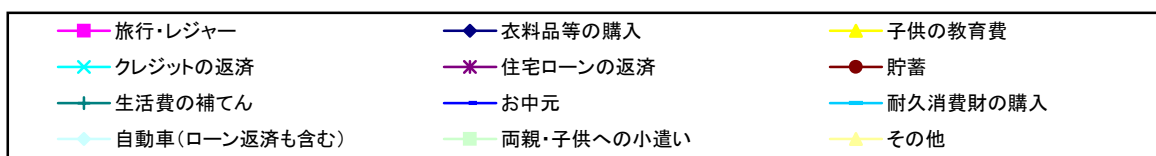
[グラフ1：夏のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]
(単位：%)



夏のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で54.4%。2位は「旅行・レジャー」で37.1%。

夏のボ - ナスの支出予定トップは「貯蓄」で54.4%。これは平成5年夏の調査以来連続のトップ。平成18年夏から比べると「お中元」が12.3ポイント減少し、7位から11位に後退。一方「旅行・レジャー」は4.7ポイント増加、節約できるところは節約し、自分への投資は惜しまない姿がみてとれるようだ。

[グラフ2：夏のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）

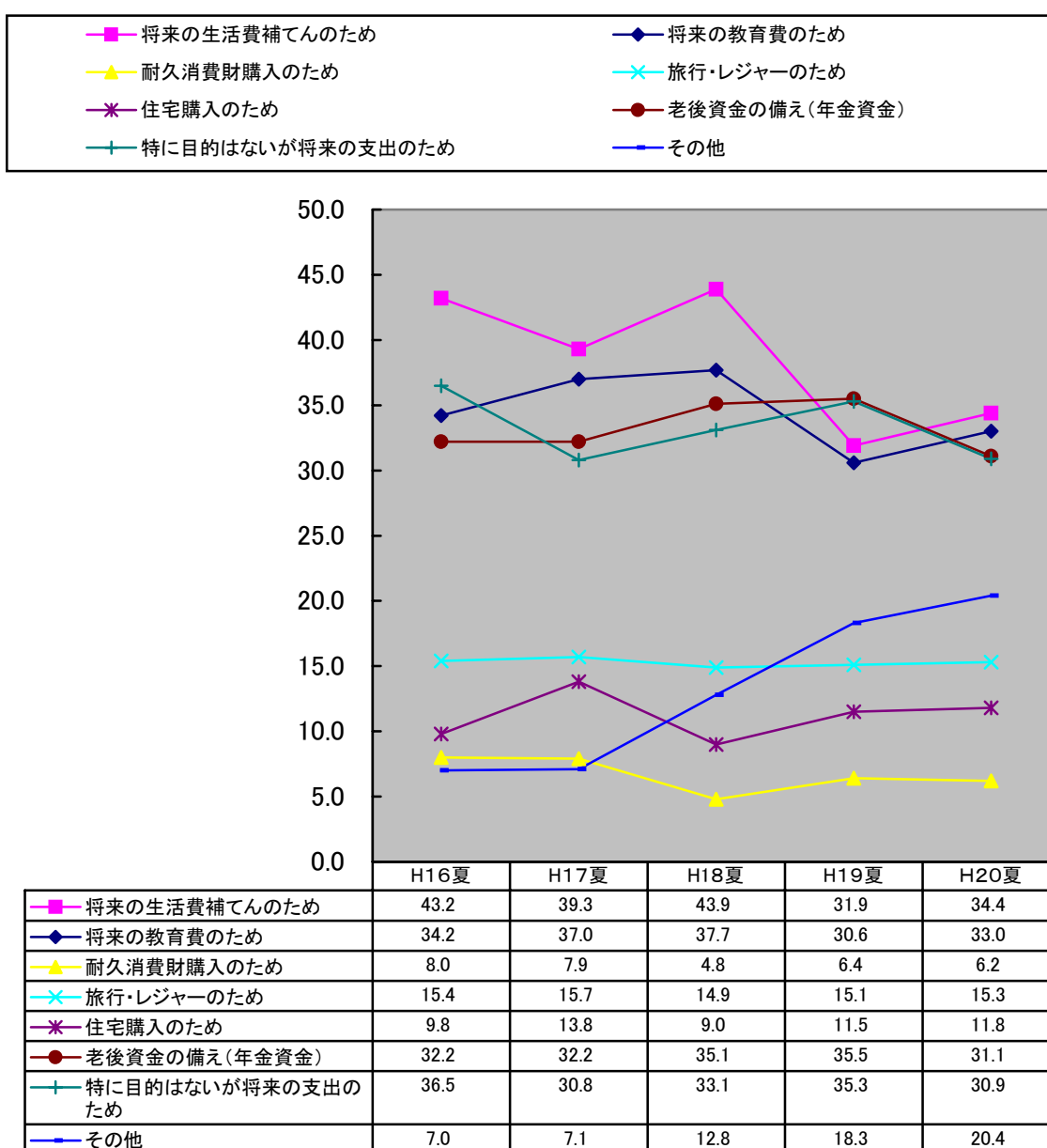


	H16夏	H17夏	H18夏	H19夏	H20夏
旅行・レジャー	33.6	32.6	32.4	32.8	37.1
衣料品等の購入	29.9	22.6	21.8	23.4	20.6
子供の教育費	29.9	27.6	34.5	25.1	32.0
クレジットの返済	10.5	12.1	6.5	6.4	9.1
住宅ローンの返済	33.0	28.5	27.6	28.1	32.0
貯蓄	44.1	48.7	46.2	57.9	54.4
生活費の補てん	33.2	34.9	37.2	23.4	23.3
お中元	20.1	19.0	19.7	10.0	7.4
耐久消費財の購入	10.9	6.9	9.4	10.2	10.7
自動車(ローン返済も含む)	13.1	15.1	13.2	18.5	15.5
両親・子供への小遣い	11.1	9.8	9.4	6.8	8.2
その他	8.2	13.0	13.0	23.4	17.5

◆ボーナスを貯蓄する目的のトップは、「将来の生活費補てんのため」が34.4%で1位。次いで「将来の教育費のため」が33.0%で2位。

“夏のボーナス貯蓄の目的は何か”の問いに「将来の生活費補てんのため」が昨年の夏に比べ2.5ポイント増加。次いで「将来の教育費のため」が33.0%で2位。主婦の実感としては、食品やガソリン価格等身近な商品の足元での上昇から、将来の生活に不安を抱えているようだ。

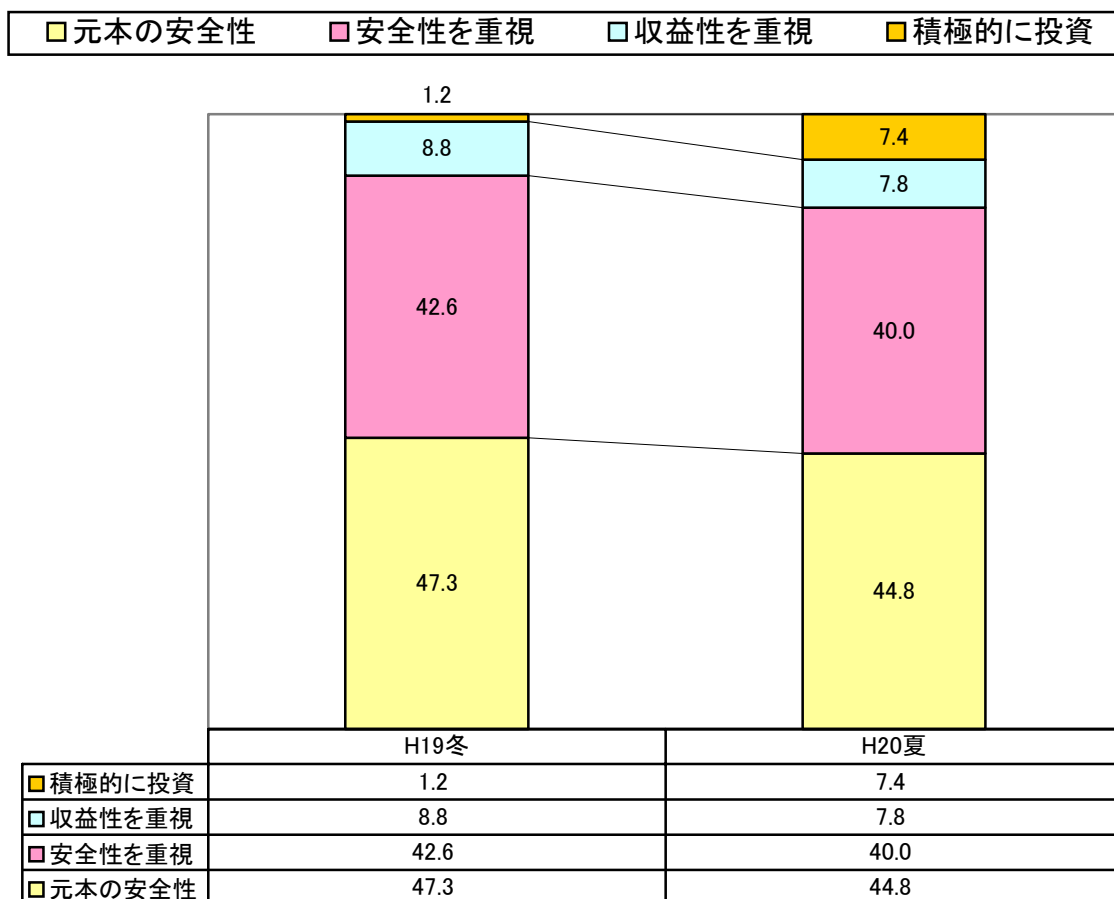
[グラフ3：将来の何のために夏のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]
（単位：％）



◆夏のボーナスを貯蓄する場合「元本の安全性を重視」が 44.8%で1位。
「収益性より安全性を重視」を合わせると 84.8%の人が安全性を重視。

夏のボーナスを貯蓄する場合、「元本の安全性を重視したい」が 44.8%で 1 位。「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が 40.0%の割合を占めており、8 割強の人は安全性に重点をおいているようだが、「収益性を重視するため、積極的に投資したい」が平成 19 年冬の調査に比べ 6.2 ポイント増加。

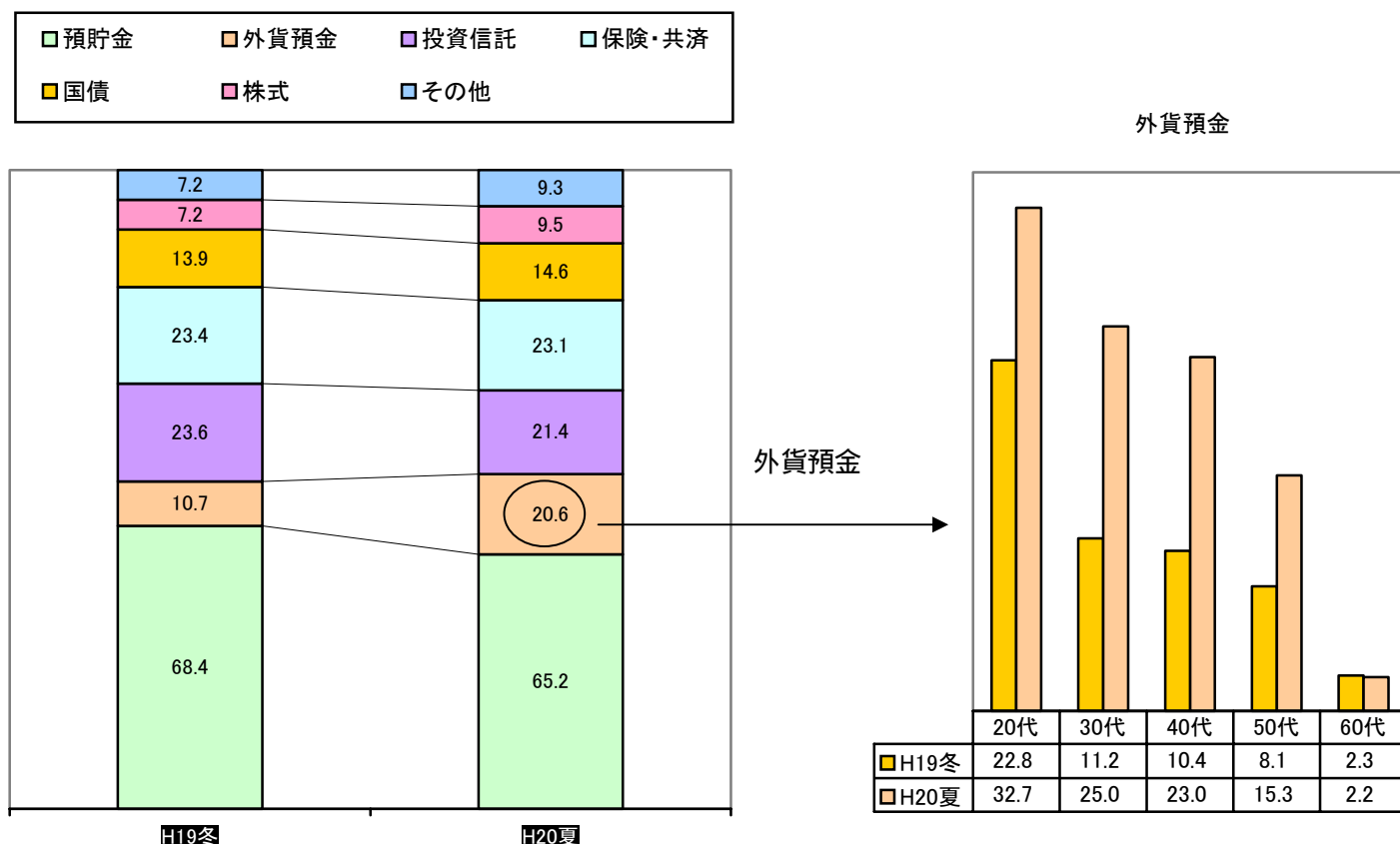
[グラフ 4 : 夏のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]
(単位 : %)



◆関心がある金融商品は65.2%で「預貯金」が1位。2位は「保険・共済」で23.1%。3位は「投資信託」で21.4%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が65.2%で1位。2位は23.1%で「保険・共済」。3位は21.4%で「投資信託」。サブプライムローン問題や株式市場の低迷の影響からか「投資信託」が平成19年冬に比べ2.2ポイント減少し、2位から3位へ後退。一方、円高の影響からか「外貨預金」が平成19年冬に比べ9.9ポイント増加、60代以外の各年代で幅広く増加している。

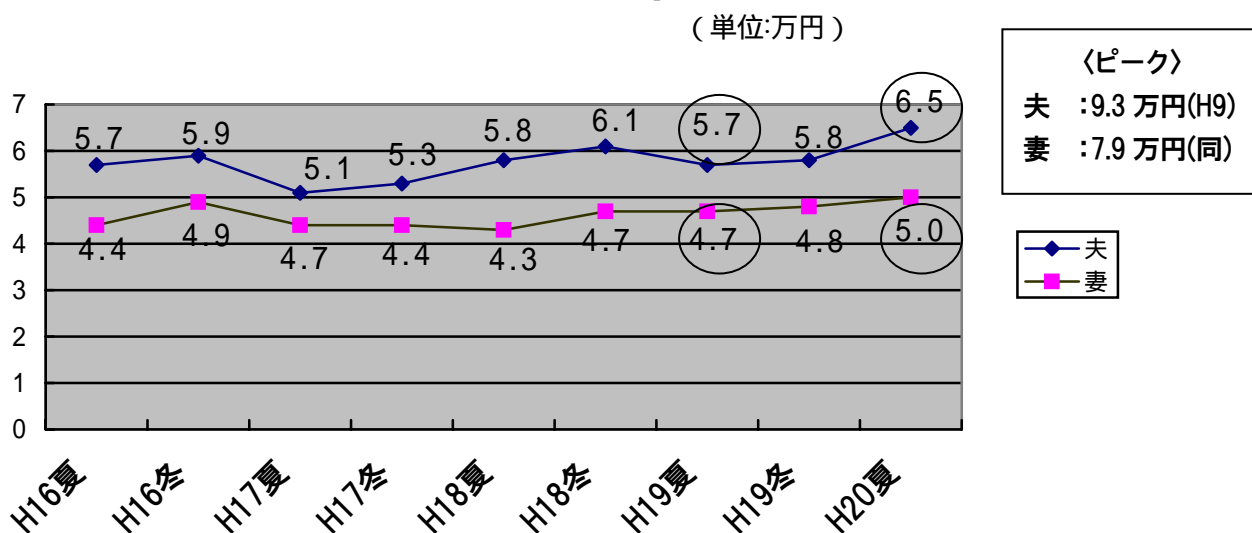
[グラフ5、6：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）]
（単位：％）



夏のボーナス、自由に使える金額は、昨年夏に比べて夫は8千円アップ。
妻も3千円アップ。

夏のボーナス、妻が自由に使える金額は平均5.0万円（昨年夏比+0.3万円）、夫が自由に使える金額は平均6.5万円（昨年夏比+0.8万円）。我慢するところは我慢して、自分へのご褒美は増やそうということのあらわれか。

[グラフ7：自由に使える金額はどれくらいですか]



この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺 まで
TEL 092-461-1869